

1. はじめに

日常生活で色を単独で見ることはなく、複数の色の組み合わせで色を見ている。各色は互いに影響し合い、本来持つ色味を強め合ったり、明暗が変化したりしている。色が互いに影響し合い、色の見え方は実際の色とは異なったものになっている。これらの現象を、色の対比または対比現象という。

本卒業研究では「対比」をキーワードに、色彩の基礎原理から学び、情報工学科に所属することから、特に「色の対比による Web サイトの分析」をテーマに調査し、調査内容を検証する方法論を考察することを目的にした。

このテーマから今後 Web サイトの構築の問題点を分析手法をも取得する事が望みでもある。

2. 調査(色の対比について)

色彩学の領域で、色の対比は 4 種類に分類整理されている。私の調査では web サイトの配色で活用でき関係するのは4つの対比現象である。

本論は関連する対比について調査報告した。

2-1. 対比の定義

色は周辺に置かれている色の影響を受け、本来の隣接している色が互いに影響し合い、本来の色味が強調されて見える現象。対比現象は、常に他の対比を伴って起きている。また対比現象は一種の錯覚である。

2-2. 対比の種類

色の対比について、Web サイトに大きく関連する4つの事例を図に示す。

1. 色相對比



色相差が強調されて起こる対比現象

2. 彩度対比



彩度差が強調されて起こる対比現象

3. 明度対比



明度差が強調されて起こる対比現象

4. 補色対比



補色関係で彩度の高低で起こる対比現象

3. Web サイトでの実験と検証

- 10人被験者に、全部で12のwebサイトを順番に見せた。
- 「1番目に着目する色」と「2番目に着目にする色」をヒアリングした。
- その色が使用されている部分に対比現象が使用されているかを聞き取り実験した。
- 対比現象の部分に誘目性があり、見にくさ、色の違いを感じるという効果が確認できた。
- Web サイト上で試行を繰り返し検証した。

4. 今後に向けて

色彩は全ての人が見ているとは限らない、色の対比を検証することにより、弱視や色弱を持つ Web 利用者に対するフレンドリーアクセス向上の糸口が生まれる。

情報伝達手段の主流となりつつある Web サイトの構築問題点も色彩学からのアプローチが解決する手段の一つとなると確信できた、今後未解決な問題点にも取り組んでいきたい。

参考文献・URL

- [1] 森 尚美『わかる！色彩検定 3級ポイントレッスン』2005. 9, 238pp,
坂本 邦夫『効果的に伝える Web 配色標準デザインガイド』2005 .9, 215pp,
- [2] http://www.blind.co.jp/styling/w_color/index.html
- [3] <http://www18.tok2.com/home/indy1959jp/index.htm>
- [4] <http://www.colordream.net>
- [5] <http://isop.co.jp/main/sinri.htm>